

トマト類を栽培されている皆様へ

令和7年5月

海外からの侵入害虫**トマトキバガ**について、

児湯農業改良普及センター管内のトマト類栽培ハウス内で、
「トマトキバガ」によるトマト類への被害が確認されました。

成虫は非常に小さな蛾（ガ）で、幼虫は葉に潜り、ハモグリバ工類と似た**工カキ症状**を示すとともに、幼虫は**果実にも穴を開け、侵入**します。

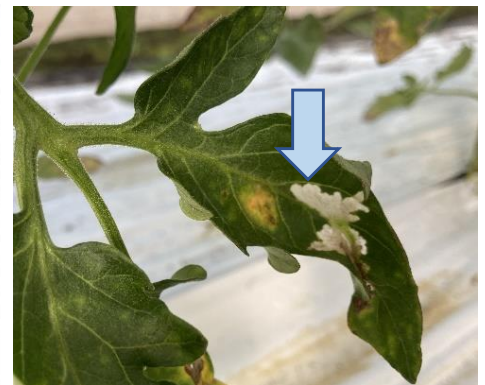
海外では農薬に対する抵抗性発達の報告があり、地域に蔓延すると防除が難しいため、以下の被害や虫を見つけたら、ご連絡ください。



成虫(体長:5~7mm)



幼虫(体長:終齢で8mm)



工カキ症状(**薄皮が残る**)



成虫



幼虫



果実症状(果実に侵入)

被害の特徴：幼虫が葉に潜って食害し、薄皮を残して透けた状態になる。

果実では、ヘタと果実の隙間付近から果実内に侵入することや
果実表面から内部に侵入することがある。

卵～成虫までの期間：24～38日

海外で報告されているトマト以外の寄主植物：ナス、ピーマン、バレイショなど

疑わしい症状がありましたら、児湯農業改良普及センター(0983-43-2311)
またはJAまでご連絡ください。

トマトキバガのハウス内への侵入・定着を防ぐために、以下の対策を行いましょう。

●促成栽培の方は・・・

- ・片付けの時は必ず蒸し込みを行いましょう。

※蒸し込みの際は、地際部を抜根または切断し、枯れやすくしてから蒸し込みを行います。

※蒸し込み期間は14日間を確保します。その後、残渣をハウス内から持ち出し、適切に処分します。

※キルパー処理による古株枯死も活用しましょう。

●夏秋栽培の方は・・・

- ・1mm目合い以下の防虫ネットを設置しましょう。
- ・ほ場内をよく見回り、早期発見に努めましょう。

※疑わしい症状を発見したら、下記連絡先に相談してください。

●仮に、トマトキバガの発生が確認された場合は、以下の対策を取ることになりますので、まずは下記までご連絡下さい。

- ・薬剤防除を行います。

現在、トマト類のトマトキバガに登録のある薬剤は表のとおりです(令和7年4月現在)。

薬剤の選定については、下記連絡先に相談してください。

IRAC	農薬の種類	登録作物	
		トマト	ミニトマト
5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	○	○
5	スピネトラム水和剤	○	○
6	エマメクチン安息香酸塩乳剤	○	○
6	アバメクチン乳剤	○	×
6	レピメクチン乳剤	○	○
11A	B T 水和剤	○	○
13	クロルフェナピル水和剤	○	○
22A	インドキサカルブ水和剤	○	×

IRAC	農薬の種類	登録作物	
		トマト	ミニトマト
22B	メタフルミゾン水和剤	○	○
28	フルベンジアミド水和剤	○	○
28	シアントラニリプロール水和剤	○	○
28	シアントラニリプロール粒剤	○	○
28	テトラニリプロール水和剤	○	○
28	クロラントラニリプロール水和剤	○	○
30	フルキサメタミド乳剤	○	○
UN	ピリダリル水和剤	○	○

- ・被害果や被害葉には幼虫が潜んでいる可能性がありますので、適切に処分します。

疑わしい症状がありましたら、児湯農業改良普及センター(0983-43-2311)
またはJAまでご連絡ください。